

## 平成21年度 国語 (50分)

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
- 2 この問題冊子は18ページである。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始前に、監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に以下の内容をそれぞれ正しく記入し、マークすること。
  - ・①氏名欄  
氏名を記入すること。
  - ・②受験番号、③生年月日、④受験地欄  
受験番号、生年月日を記入し、さらにマーク欄に受験番号(数字)、生年月日(年号・数字)、受験地をマークすること。
- 4 受験番号、生年月日、受験地が正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。
- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークすること。例えば、

10
----

と表示のある解答番号に対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の②にマークすること。

(例)

解答 番号	解 答 欄				
10	①	②	③	④	⑤

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってよい。

1

次の文章を読んで、後の問1～問4に答えよ。

昭和初期、神戸の造船所で働きながら設計技師を目指していた加藤文太郎は、ヒマラヤ登山という夢を抱き、日本各地の山々を一人で登っては登山技術を磨いていた。上司であり登山家でもある外山三郎は加藤の実力を認め、多くの仲間を作ることが加藤の将来のために必要だと考えていた。

無精髭をはやした若い主人が木の丸椅子に腰かけて本を読んでいた。店番よりも、本の方に夢中なので、時折客が入って来ても声をかけないかぎりふり向きはしなかった。

加藤文太郎は店の中を二周した。二周といっても、ほとんど身体の向きを変えるぐらいの店の広さだった。

加藤は店の中の物を全部見てしまった。もう見る物はなくなつたから、店の主人が読んでいる本を覗きこんだ。それは藤沢久造著の『岩登り術』であった。

おやという眼で加藤は店主を見た。その本は日本における最初の岩登りのことを書いた本であり、藤沢久造が四百部ばかり自費出版して同好者に配布したものであるから、この本を持つている者は、まず、日本における登山の先陣を担っている人であると考えてさしつかえないと、かねて外山三郎に聞いていた。加藤はその本を持つている店主の顔を改めて見直した。

加藤が店主に興味を持った時、店主の方も彼の前に突っ立って他人の読んでいる本を覗きこんだ失礼な客の顔を見たのである。

加藤はにやりと例の笑いをもらして、ポケットから外山三郎の名刺を出した。好山荘運動具店主、志田虎之助あてに、加藤君を紹介し、よろしくと書いてあった。

志田は名刺を受け取るとゆっくり立ち上がって、加藤に眼で挨拶した。

「このアイゼンが気に入らないのですが、見ていただけませんか」

加藤は片手にぶらさげて来たアイゼンを、志田の前に置いていった。

「気に入らなかつたら、捨てて新しいのを買うんですね」

志田はぶつきら棒に言つて、加藤という男を頭のとっぺんからつま先まで見おろした。登山靴を穿はいていた。そうたいして穿きふるされてないところを見ると山の経験は浅いらしい。

「捨てるんですけど、もったいない。ぼくはこのアイゼンをぼくの靴に合うように直せるかどうか相談に来たんです」と加藤はいった。

「そのアイゼンを買った店へ行つて相談したらいいでしょう、うちはこんな安物は売ったおぼえはありません」

志田ははなはだ面白くない話だという顔をした。

「直して貰もらいに来たのではありません、直していいものかどうかあなたに相談して見ると外山さんにいわれて来たのです」

加藤の顔から微笑は消えていなくなった。志田には、加藤のその微笑の顔が、薄気味悪いほどに落ちついて見えた。

「どこで使つたんです」

志田はアイゼン(注3)の真田紐(注4)を手持つて、くるんくるん廻まわしながらいった。

「八ヶ岳へいって来ました」

「ほう、いつです、あなたはどこの山岳会ですか」

加藤がひとりで八ヶ岳へ登山して帰つたばかりだというと、志田は、それまでの態度をいささか変えて、それでは裏へ廻つて貰もらいましょうかという、店の奥へ声をかけて、一度は店の前へ出てから、せまいところをくぐりぬけて通つて裏へ出た。狭い庭があつて、その隅に、古畳が薪の上に、四十度ぐらいの角度で立てかけてあつた。

「アイゼンをつけて、そこを歩いて見てください」

志田はそういつて腕を組んで、あとは加藤が、アイゼンをつけて、古畳の上を登つたりおりたりするのを黙もくつて眺ながめていた。

「どうですか、このアイゼン」

加藤は、古畳登山を二、三度やつてから、いい加減ばかばかしくなつたところで志田の意見を求めた。

「あなたはどう思います」

志田が反問した。

「どうって、よくないですね。がたがありますよあいかかわらず」

「それなら、捨てるんですな、一流の登山家になるんなら、道具をけちびつちやあだめだ。本来アイゼンというものは、自分の靴に合せて作るものであって、できあがったものを自分の靴に合わせるものではない。アイゼンにかぎらず山道具はすべて、自分本位に作るものだ」

志田は庭石に腰をおろしていった。加藤もそのとなりに腰をおろした。

「注文して作らせるといっわけですか」

「まあ、そういうことだな」

ふたりはそろって山の方を見上げた。加藤の頭の中に映像となって焼きついていくほど親しんだ神戸の山々だった。

「山はだいぶやったんですか」

「たいしたことはないんです」

「外山さんとは古い知り合いかね」

「はい」

それだけの会話のあとまた空白ができた。ふたりが黙って山を見詰めていると、さつき、ふたりが、すりぬけて通って来たところから、毛糸のセーターを着こんだ青年がのっそりと現れて、志田に目礼して彼のそばに坐った。

「大野義照君、摩耶山岳倶楽部のメンバーだ」

志田は加藤にその男を紹介してから、大野の方には、加藤君とだけ紹介した。

「ところで、八ヶ岳へ行って来たと言っていたね、いつどこから入ったのだね」

志田は長い沈黙の末、やっと質問すべきテーマを発見したように言った。

「十二月三十一日の朝六時三十分茅野駅を出発して夏沢鉱泉まで雪道を歩きました。夏沢鉱泉についたのが午後四時」

ほう、といった顔で志田は加藤を見た。一度しゃべり出すと、加藤はそれからはよどみなくたんたとしゃべった。吹雪が止んだ朝、三時に夏沢鉱泉を出て峠を越えて本沢鉱泉までいき、また引きかえして夏沢峠へ出て、そこから硫黄岳へ登り、強風の中を赤岳をやって、午後の三時には夏沢鉱泉へ帰着して、すぐその足で茅野まで歩いて夜行列車の人となるという超人的なふるまいを、別にこれといった修飾もなく話すのを聞き終わってから大野義照がはじめて口を出した。

「あなたは、地下たびの文太郎……いや、あの加藤文太郎さんではありませんか」

大野義照はある種の感激を顔に現していった。

「そうです、加藤文太郎です」

加藤がそう答えると、それまで腕を組んで、彼の話を聞いていた志田虎之助が、

「なるほど、きみがあの加藤文太郎か、それならそうと外山さんも、紹介状に書いてくれればいいものを」

志田虎之助の耳にも加藤文太郎のことは聞こえていた。

「しかし、想像した人間と実物とはずい分違うものだ。おれはまた、地下たびの加藤という男は鬼をもひぐような顔をした男かと思った」

志田は愉快そうに笑ったが、大野義照はいくらか紅潮した顔で、加藤の顔を見詰めながら、

「摩耶登山倶楽部の能戸正次郎さんから、あなたこそ、関西の山岳会を代表する登山家となる人だと聞きました、どうぞ今後ともよろしく願います」

大野はべこりと頭をさげたが、加藤はそれになんともこたえず、いやにけむったような顔をして突っ立っていた。

「いい天気だな」

と志田がいった。こんないい天気の日、家になんかいるのはもつたいたいなと志田はつけ加えた。次の日曜日には、岩登りのトレーニングでもやろうかといつた。ふたりを誘ったようでもあり、自分自身にいったようでもあった。

それから三人は長いこと黙って神戸の山を見詰めていた。

「なあ加藤君、山のこと話したいことがある、いつだつていいから、うちへ来い、山仲間の誰かがきつといるからな」

志田は二階をゆびさしていった。いつの間にか友人つき合いのことばに変わっていた。

(新田次郎『孤高の人』による。)

(注1) 例の笑い——加藤の笑い方の癖で、他人から皮肉や軽蔑の表情に受け取られてしまうことがあった。

(注2) アイゼン——雪山で使う、滑り止めのために登山靴につける金属製の爪。

(注3) 真田紐——扁平で細い織物のひも。

(注4) 八ヶ岳——長野県と山梨県の県境付近の海拔二五〇〇〜二八〇〇メートルの山々からなる山塊。

(注5) けちびつちやあだめだ——「けちけちしてはだめだ」の意味。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字の正しい読みを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は  ～  。

(ア) 先陣

⑤ せんじん   ④ せんぐん   ③ さんじん   ② さきじん   ① せいじん

(イ) 名刺

⑤ めさし   ④ なさつ   ③ なさし   ② めいし   ① めいさつ

(ウ) 眺めて

⑤ ゆが(めて)   ④ しか(めて)   ③ みつ(めて)   ② なが(めて)   ① そば(めて)

(エ) 帰着

⑤ きとく   ④ きちやく   ③ きかん   ② きしゃく   ① きじん

(オ) 愉快

⑤ ゆかい   ④ たんかい   ③ えつかい   ② しかい   ① そうかい

問2 傍線部A 加藤はその本を持っている店主の顔を改めて見直した。とあるが、それはなぜか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

一つ選べ。解答番号は  。

- ① 加藤に対して無関心な態度をとる店主に不満を感じ、信頼に足る人物であるかどうか自分自身の目で見極めたいと思ったから。
- ② 加藤の存在に気付かないほど、店主が岩登りに関する本に夢中になっていることがわかり、その真剣さに感銘を受けたから。
- ③ 無精髭の店主が、加藤が入ってきてても振り向いてくれなかつたので、外山に紹介された人物と同一人物であるか確かめたかつたから。
- ④ 無愛想な店主が、実は日本の登山界において主導的な立場の人間の一人であることを知り、驚きと同時に関心を抱いたから。
- ⑤ 年若い店主の読んでいる本は、かねてから興味を持っていた本であり、ぜひ自分にも読ませてもらえるように頼みたいと考えたから。

問3 傍線部B いやにけむつたいような顔をして突っ立っていたとあるが、このときの加藤の気持ちはどのようなものか。最も適当なものを、次の

①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

- ① 興奮している大野に対して少し距離を取りながら、騒がれることに戸惑いを感じている。
- ② 志田が自分の名声を知った途端に態度を変えたことから、人間性への不信感を一層強めている。
- ③ 自分の名前が想像以上に世間に知られていることに対し、誇らしげな気持ちを抱いている。
- ④ 大野のせいで話の流れが当初の目的であるアイゼンからそれてしまい、憤りを感じている。
- ⑤ 登山の素人として扱ってもらってもらうつもりが素性がばれてしまい、投げやりな気持ちになっている。

問4 本文において、加藤に対する志田の気持ちはどのように変化しているか。最も適当なものを、次の

8。

- ① 最初は無礼な態度を取るうつとうしい客だと思っていたが、加藤が有名な登山家だと知って感激し、全幅の信頼をもって接するようになった。
- ② 最初は店に来た客として愛想よく接していたが、つかみどころがなく人を試すような加藤の態度にだんだんいらだちを覚えるようになった。
- ③ 最初は素性のわからない加藤の言動に対してそつけない態度を取っていたが、加藤の登山経験を知って一目置き、親近感を持つようになった。
- ④ 最初は店内での加藤の不審な行動に警戒心を募らせていたが、来店の目的がわかり、登山専門店の主人として親身に接するようになった。
- ⑤ 最初は同じ登山仲間である加藤のよそよそしい態度に物足りなさを感じていたが、その態度も加藤の魅力の一つであると感ずるようになった。

次の文章を読んで、後の問1〜問5に答えよ。

化学(ケミストリー)の前身は錬金術(アル・ケミー)であった。鉛や鉄のような「卑金属」を金や銀のような「貴金属」に変えようとして、熱したり、キタえたり、蒸留したり、薬品を加えたりと、さまざまな工夫をしたのだが、そのような手法では原子を変換させることができないからすべて失敗に終わった。しかし、そこで開発された実験手法が、物質の化学的性質や反応性を調べ、さらに自然界には存在しない物質を作り出す化学という分野を生み出したのである。特に、二十世紀に入って、石炭や石油を材料にして多種多様な人工化学物質が作り出されるようになり、「化学の二十世紀」を作り出した。これまでに登録された化学物質は千五百万種、日常に使っているものは十万種と言われており、私たちの周辺には人工化学物質が氾濫している。ちよつと周辺を見回しても、医薬品・化粧品・食品添加剤・着色剤・脱色剤・芳香剤・塗料・染料・防腐剤・接着剤・農薬・発泡剤・冷媒・合成樹脂・建材・玩具・合成繊維などが目につく。

これら人工化学物質が多く使われるようになったのは、化学的に安定している、柔軟性に優れている、可塑性がある、腐食しにくい、成型加工しやすい、というような利点に目をつけられたためだが、むろん大量生産できるので天然物質に比べて安いことが何よりの理由であった。しかし、人類は、天然に存在しない物質であるが故の重大な欠点があることを長い間忘れていた。一つは、自然の浄化力では簡単に処理できず、廃棄された人工化学物質が環境に蓄積される一方になっていることである。もう一つは、生物は、これまでの長い歴史において人工化学物質にソウグウしてこなかったため、それに対応する方法を知らないということだ。むしろ、人工化学物質は、耐久性に優れており、バクテリアや昆虫を駆除する力が強いと、バラス色の利点のみしか考えてこなかった。しかし、環境問題あるいは生態系というリトマス試験紙を挟むと、たちまち異なった色が現れてくる。

むろん、これは人工化学物質だけに限ったことでなく、地球温暖化、酸性雨、原子力、海洋汚染、土壌汚染、水汚染、遺伝子操作など、現在私たちが直面しているさまざまな難題に共通している。近視眼的に利点のみを見て、長期的な害悪まで考えなかった(目を瞑ってきた)からだ。その結果として、環境異変が生じるようになったと言えるだろう。では、持続しうる環境を次の世代に受け渡していくために、私たちが今必要とされている環境哲学とはいかなるものなのだろうか。それを考えるヒントとして、薬品のような人工化学物質の安全性の考え方が歴史的にどのように変遷してきたかを考えてみよう。

薬品はバクテリアや昆虫への殺菌力や殺虫力に注目して開発されてきた。しかし、それが人間の健康を害するようなものであつてはならない。まず、人間にとって安全なものでなければならぬのだ。では、その安全性の基準をどのように定めてきたのだろうか。

最初の基準は「人間に致命的な急性疾患を引き起こしてはならない」というものだった。例えば、パリグリーンのような無機物の毒は、殺虫剤に使え

るが、人間も含めた哺乳類<sup>ほてゆうるい</sup>にとって致命的だから許されるものではなかったのだ。そこで、昆虫には毒性を持つが他の生物には無害であり、安く生産でき、化学的に安定で、無臭の有機化合物が探し求められた。その最初の産物はDDT(ジクロロ・ジフェニル・トリクロロ・エタン)で、一九三九年にスイスのP・ミユラーによって開発された。DDTは、チフス<sup>(注3)</sup>を媒介する蚤<sup>(注4)</sup>やマラリアを媒介する蚊を駆除するのに大いなる戦果をあげ、理想的な殺虫剤として広く使われるようになった。そのコウセキ<sup>(ウ)</sup>で、ミユラーは一九四八年にノーベル医学生理学賞(化学賞ではない)を受賞したほどである。私の子どもの頃<sup>こゝろ</sup>、DDTを、家屋やくみ取り式トイレの殺虫剤として、あるいは農業として大量に使っていたことを覚えている。

しかし、DDT(やBHC)のような有機塩素系の薬品は「人畜無害」ではなく、体内に蓄積して変異原性やガン原性(発ガン性)があることがわかり、一九六〇年代に生産・使用が禁止となった。変異原性とは、遺伝子に突然変異を引き起こすために性質が変わった個体が出現し、その変化が次世代に伝えられることで、発ガン性とも密接な関係がある。そこで、薬品の安全性の新しい基準として、「人間の健康に長期間にわたって深刻な影響を与えない」が採用されるようになった。殺虫剤ではないが、DDTと同じような運命をたどったのがPCBである。絶縁性・耐熱性・耐薬品性に優れており、化学的に安定であることが買われて、トランス<sup>(注5)</sup>の絶縁体、カーボン用紙、インクやペンの添加物などに使われていたが、有機塩素化合物の持つ変異原性やガン原性のため、一九七二年に生産禁止、七四年に使用・販売が禁止となった。

さらに、安全性に関するより厳しい基準として、「慢性疾患による健康へのフカ<sup>(エ)</sup>を引き起こさない」が加わるようになった。アレルギーや化学物質過敏症のような病気や、長期間経つてから肝臓や神経に障害を与えるような慢性疾患に対しても、安全性が確保されねばならないと考えられるようになったのだ。環境ホルモン(内分泌攪乱物質<sup>かくらん</sup>)が問題とされるようになり、七十種類の化学物質が指定されたのがその好例である。ただ、問題は、どのようにしてそれを試験(テスト)するかである。微量だが長期的に使用することによって生じるのが慢性疾患だから、長期にわたる微妙な試験をしなければならぬからだ。肝臓や神経に害を与えるような物質は比較的試験しやすいが、アレルギーや化学物質過敏症などは、人による体質の差があり、他の要因と複合して起こる場合もあるので、明確な結果が出しにくい。環境ホルモン問題の難しさがここにある。<sup>B</sup>

以上のように、人工化学物質に対する安全性の考え方は、より厳しい基準へと変遷してきたが、それは必ずしも人間の進歩を意味するわけではない。被害者が多く出て有害性が明白になったために厳しくしてきたに過ぎないからだ。皮肉に言えば、人体実験を行い、その結果が出てから、やっと禁止したり、新しいテスト項目を加えてきたのである。そして、禁止したときには、既に世界中に広がっており、環境汚染が大きく進行していた、という歴史であったのだ。さらには、生産・使用禁止後も在庫品を第三世界に輸出してきた先進国企業<sup>(注6)</sup>のモラル・ハザードも指摘しておきたい。<sup>C</sup>

ともあれ、安全性の考え方がより厳しくなってきたことは高く評価できる。少なくとも毒物の氾濫が少しは軽減されるのだから。問題は、人間や環境への有害性がわかってから禁止するような後知恵の策ではなく、先手を打って安全性を確保する考え方があるかどうかである。

数年前から「予防措置原則」が言われるようになった。その定義は、「ある行為が人間の健康あるいは環境に悪影響を与える恐れがある場合、たとえその因果関係が科学的に立証されていなくても予防措置がとられるべきである」(九八年一月ウイニングスプレッド会議)<sup>(注5)</sup>というものである。要するに、ある行為が人間や環境にとって有害かもしれないと指摘された問題について、その有害性が科学的に証明されていなくとも、実行する側にそれを予防するための措置を義務づけることを原則とするのだ。被害が出てから手当てをするのではなく、悪影響が出ないよう事前に手を打っておこうという考え方で、右に述べたこれまでの安全性の考え方を数歩も前へ進める画期的な原則と言いうことができる。

単純に言えば、「疑わしきは罰する」という哲学である。特定の個人の生命や財産を害する犯罪については、冤罪を防ぐために「疑わしきは罰せず」が法哲学の根本である。これまで、その考え方が公害問題や環境問題にも適用されてきたため、決定的な証拠が出るまで企業活動や公共事業の差し止めができなかった。しかし、不特定多数の人々の健康や安全に害があると想定される場合や環境に悪影響を与える恐れがある場合は、「疑わしきは罰する」を環境哲学の基本としなければならない。環境は自ら立ち上がって提訴できないからだ。この原則によって、被害が出る前に、あるいは被害が出ても最初の段階で中止させることが可能になるだろう。

むしろ、自由貿易が阻害される、技術革新がサマタげられる、多大な費用がかかり過ぎる、というような経済論理からの反対が強いだろう。しかし、この反対は、金儲けのためには、環境が悪くなったり、少々の犠牲は出ても構わないとする、二十世紀型の無責任な開発論理である。人類の持続可能性が緊急の課題となりつつある二十一世紀は、そのような価値観は通用しない。今、必要なのは、予防措置をとるべき悪影響をどこまで厳しくするのか、予防措置の検証は実施可能なのか、義務違反を誰が裁くのかなど、予防措置原則の実施上の問題をきめ細かく考え、新しい安全性の考え方でして定着させてゆくことではないだろうか。「疑わしきは罰する」環境哲学を是非広げたいと思っている。

(池内了『ヤバな科学』による。)

(注1) 可塑性 —— 粘土、プラスチックなどのように、強い力が加わった時に形が変わってしまいそのまま元に戻らない性質。

(注2) バクテリア —— 細菌。

(注3) チフス —— チフス菌の侵入によって起こる伝染病。

(注4) マラリア —— ハマダラカによって媒介される伝染病。

(注5) トランス —— 電圧を変える器械・変圧器。

(注6) 第三世界 —— 先進資本主義諸国を第一世界、社会主義諸国を第二世界、とするのに対して、アジア・アフリカおよび中南米などの発展途

上国群を指す言葉。

(注7) モラル・ハザード——倫理が欠如したふるまい。相手が正しい情報を知り得ないということを前提に行われる。

(注8) ウィングスプレッド会議——ウィングスプレッド(アメリカにある会議センター)において、科学者、哲学者、環境活動家が予防原則の定

義について話し合った会議。

問1 傍線部(ア)～(オ)に当たる漢字を、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は  ～  。

(ア) キタ|え

⑤ ④ ③ ② ①  
備(え) 唱(え) 訓(え) 練(え) 鍛(え)

(エ) フカ|

⑤ ④ ③ ② ①  
架 暇 貨 荷 仮

(イ) ソウ|グ|ウ

⑤ ④ ③ ② ①  
遇 控 偶 延 遭

(オ) サマ|タ|げ

⑤ ④ ③ ② ①  
避(げ) 削(げ) 妨(げ) 逸(げ) 邪(げ)

(ウ) コウ|セ|キ

⑤ ④ ③ ② ①  
航 功 巧 鋼 肯

問2 傍線部A 環境問題あるいは生態系というリトマス試験紙を挟むと、たちまち異なった色が現れてくる。とあるが、この部分は何をどのように

効果的に表現しているか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 人工化学物質は、環境や生態系にとっては有害なこともあるということを、視覚的な<sup>ひび</sup>比喻を用いて鮮明に印象づけている。
- ② 人工化学物質は、環境や生態系の影響を受けてすぐに変質してしまうということを、実験材料を比喻に用いてその変化を際立たせている。
- ③ 人工化学物質は、その性質を調べるのにリトマス試験紙が最適な方法であるということを、具体的な事例を示して証拠づけている。
- ④ 人工化学物質は、天然物質を用いない点で環境によいということを、調査や実験の結果を提示することで強調している。
- ⑤ 人工化学物質は、生態系に蓄積されることで能力が弱まるということを、具体的な実験結果を提示することで論証している。

問3 傍線部B 環境ホルモン問題の難しさがここにある。とあるが、筆者がここで述べている環境ホルモン問題の難しさとは何か。最も適当なもの

を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 環境ホルモンの種類が多いためそれぞれを区別することが難しいということ。
- ② 安全性の基準を厳しくすることで化学物質の生産に制限が加わるということ。
- ③ 化学的に安定し大量生産できる化学物質が使用禁止になったということ。
- ④ 症状を誘発する物質と症状との因果関係を明らかにし難いということ。
- ⑤ 人工化学物質が重い慢性疾患を引き起こしてしまうということ。

問4 傍線部C 人工化学物質に対する安全性の考え方は、より厳しい基準へと変遷してきたが、それは必ずしも人間の進歩を意味するわけではない

とあるが、筆者はなぜそのように考えているのか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 人工化学物質の安全性の基準は、過去の人々の経験に基づいて作られたもので、その根拠として科学的な合理性を軽視しているから。
- ② 人工化学物質の安全性の基準は、あくまでも被害があつてから作られたものであり、あらかじめ有害性を考えるという視点が欠けたものだから。
- ③ 人工化学物質の安全性の基準は、一部の人々にしか認知されておらず、予防措置として実施する上での細かな問題を多く残しているから。
- ④ 安全性を最優先に考えることは、人工化学物質の開発や生産に制限を加えることになり、科学技術の進展に歯止めをかけることになるから。
- ⑤ 安全性を重視することは、人工化学物質を大量生産できなくなることにつながり、社会全体の生産能力や経済発展に損害を与えることになるから。

問5 傍線部D 「疑わしきは罰する」を環境哲学の基本としなければならない とあるが、筆者はどのような意見を持っているのか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 美しい自然環境を次世代に残すという最重要課題のためには、人命や人々の生活に多少の犠牲が出ても仕方がない。
- ② 有害であっても決定的な証拠が出るまでは化学物質の使用を差し止められないので、まず科学的に立証することを最優先すべきである。
- ③ 人々の生活に不可欠な科学技術開発や経済発展も重視した上で、人工化学物質の安全性の基準を模索すべきである。
- ④ 環境に悪影響があると予想される場合であっても、環境は人々に共有のものであるため誰も訴えを起こすことはできない。
- ⑤ 技術開発や経済発展よりも人類の持続可能性を最優先にすべきであり、人命と環境のこれ以上の犠牲は許されない。

次の文章を読んで、後の問1〜問5に答えよ。

(注1) 一休和尚へ、ある時旦那来たりて申しけるは、「この御寺へ出入り仕り候ふとて、人々申しけるは、『話則の一則もぬけたるか。』などとて、我らの愚痴なるをあなどり、なんとも迷惑をいたし候ふ間、何にても一則御慈悲に示したまへ。」と申しければ、「やすきことなり。さらば参じられよ。」とありければ、「参ずるとは、いかなることにて侍りける。」と申せば、「いや、なんなりとも、仏の道にてがてんのゆかぬことを尋ねられよ。」かしくまつて候ふ。」とて、仏殿をさして走り出る。

一休おかしく思し召し、見ぬ顔しておはしければ、せつなの中に走り帰る。一休、「いづくへ行ける。」とのたまへば、「『仏の道に不審あらば申せ。』と仰せられしにより、仏の道は仏殿へ行く道なると存じ、一はしりに見てまゐり候ふが、いかにもがてんのまゐらぬことこそ御座候ふ。あの山門のほとりの松に巢をかけて候ふが、何の巢ともさらにながてんまゐらぬ。おほかた鷲の巢には見えて候へども、しかとはわきまへず候ふ。」と申しければ、「いやいや、からすこそいま時分は巢をかくれ。」とのたまへば、「いや、とても御ことに、御慈悲をたれて示したまはれ。」と申しければ、「その義ならば。」とて、「はしのこをもちゆき、のぼりたまへ。」と仰せられければ、かの者いそぎのぼりて、かの巢をおろしてみれば、中に鳥の子もなく、何とも見えぬなり。一休「何なる。」とのたまへば、「何も中にはなく侍る。」と申せば、

一休和尚

D 鷲の巢をおろして見ればからすにて

「これにつけて見たまへ。ここが一則なるは。」と仰せられければ、かの者「なかなか何ともつけ申すべき心はなく候ふ。」と申しければ、一休仰せられけるは、「そこなるは。我もなんぢに一則授け知らすべき心はなし。」と、示したまへば、かの者おどろき、「さては一休様も仰せられがたく侍るか。」と申しければ、「<sup>(注8)</sup>「自心自仏。」と答へたまへば、横手をはたと打ちて帰り、つひに自得しけるとなり。

(『一休ばなし』による。)

(注1) 一休和尚——室町中期の臨済宗の禅僧。

(注2) 話則——禅の道の規則。

(注3) 一則もぬけたるか——一つでも会得したのか。

(注4) 愚痴——愚かなこと。

(注5) 参じられよ——禅の和尚である私の元に、教えを受けに参じなさい。

(注6) せつなの間——すぐに。

(注7) はしのこ——はし。

(注8) 自心自仏——仏は自分の心にあるものであり、自分で悟ることであるから人に教えられるものではない。

問1 傍線部A 旦那 とあるが、この人物は周囲からどのように見られていたか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号

号は 18。

- ① 人々の愚かさを的確に指摘していたことで、信頼のおける人物と見られていた。
- ② 当時名の知れた一休和尚と親しくしていたために、果報者と見られていた。
- ③ 用もないのに寺に頻繁に出入りしていたことから、不審な人物と見られていた。
- ④ 寺に出入りしながら、悟りを得ることができない愚かな人物と見られていた。
- ⑤ 寺に頻繁に出入りしていたため、禅の道にとっても熱心な信者と見られていた。

問2 傍線部B 仏の道 とあるが、ここでは具体的に何を意味するか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

19。

- ① 亡くなった人が活躍した足跡。
- ② 禅の道の理念や教え。
- ③ 来世に向かうまでの道のり。
- ④ 寺にある仏殿に向かう道。
- ⑤ 慈悲深い人になるための秘訣ひけつ。

問3 傍線部C さらにがてんまゐらず とあるが、この部分の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

20。

- ① まったくわかりません。
- ② だいたい察しがつきました。
- ③ すぐには確かめることができません。
- ④ そのうえ鳥もやってきません。
- ⑤ 全然興味がわいてきません。

問4 傍線部D 鷺の巣をおろして見ればからすにて とあるが、この部分の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解

答番号は 21。

- ① 鷺の巣をおろしてみると鳥からすと鷺がいつしよにいて。
- ② 鷺の巣をおろしてみると鳥が声を枯らしていて。
- ③ 鷺の巣をおろしてみると鳥が辛つらそうにしている。
- ④ 鷺の巣をおろしてみると鳥ならぬ空からの巣であつて。
- ⑤ 鷺の巣をおろしてみると鳥の卵が入っている。

問5 この文章の特徴について述べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

22。

- ① 一休が、窮地に陥った旦那に対して禅の難しい用語をたくさん使いながら救う様子を描いている。
- ② 一休があらたに悟りを開くまでのいきさつを、旦那の経験談をもとに比喩ひゆを豊富に使って描いている。
- ③ 旦那が見当違いな考えを言ったが、その言葉自体が禅の本質的な理念にかなっていたことを論理的に描いている。
- ④ 旦那が一見無能な男のようにみえて、実は悟りを開いた大物であることをほのめかすように描いている。
- ⑤ 旦那が悟りを開くまでの過程を、旦那の素朴な疑問と一休の示唆に富んだ会話を多く用いて描いている。

次の文章を読んで、後の問1〜問5に答えよ。(設問の都合で送りがなを省いたところがある。)

善クをさむル為レ国者如ニ偃えん師し焉シ。民如レ幻也なり。欲ニ之カ動カ、欲ニ之ガ静カナランコトヲ。機ハ在ニ於レ我ニ。豈あ当まさ不ざレ

随したが乎ハヤ。善ク為レ君者ハ、猶なほ造ぎょう父ほ焉シ。人猶ホ馬ノ也なり。欲ニ之ガ東センコトヲ、欲ニ之ガ西センコトヲ。策ハ在ニ於レ我ニ。豈ニ有ラン能よク

違たが乎フコト。經ニ曰ハク、不ニ独リ親トセ其ソノ親ヲ、則すなはち天下皆親タリ。不ニ独リ子トセ其ソノ子ヲ、則チ天下皆子タリ。富哉メルかな是機

也ヤ。我もつて以ニ天下ヲ為レ親ト為レ子ト。天下孰不ニ以レ我ヲ為レ親ト為レ子ト乎ト。夫然それしかり故災害不ず生ぜ、禍乱

不おこ作ス。此聖人之旨也。則知欲安者必先安於人、欲利者必先利於人。

(『続文章軌範』による。)

(注1) 偃師——人形つかい。

(注2) 幻——人形。

(注3) 機——からくり・方法。

(注4) 造父——人名。馬を扱うことに優れていた周(国名)の人。

(注5) 策——鞭。

(注6) 經——「礼記(書名)」のこと。儒者の古礼(昔行われていた礼式・作法)に関する説を集めたもの。

(注7) 禍乱——世の災いや乱れ。

問1 傍線部A・Bの「之」は、それぞれ「だれ」を指しているか。その組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 23。

- |   |          |          |
|---|----------|----------|
| ① | A 国を治める者 | B 国を治める者 |
| ② | A 国を治める者 | B 人民     |
| ③ | A 人民     | B 人民     |
| ④ | A 人形つかい  | B 人形     |
| ⑤ | A 人形     | B 人形つかい  |

問2 傍線部C「豈不当随乎」とは、「だれ」が「どうなる」ことを意味しているのか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 24。

- ① 人民が国を治める者の心に添って動くようになること。
- ② 人民が自らの考えに従って判断するようになること。
- ③ 国を治める者が人形つかいを重く用いるようになること。
- ④ 国を治める者が人民を力で屈服させるようになること。
- ⑤ 国を治める者が人形つかいに操られるようになること。

問3 傍線部D「経曰」とあるが、「経」の内容はどこまでか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 25。

- ① 天下皆親。
- ② 天下皆子。
- ③ 夫然。
- ④ 不作。
- ⑤ 利於人。

問4 傍線部E 我以天下為親為子。天下孰不以我為親為子乎。とはどういうことか。最も適当なものを、次

の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 26。

- ① 国中の人民が、それぞれ自分の親と子どもを大切にしようになるということ。
- ② 多くの人民が国を治める者のことを、親とは思わが子どもとは思わないということ。
- ③ 人生の意味は、実際に親となつて子どもを育てた者でなければ分らないということ。
- ④ 人民が国を治める者を親と思い、国を治める者が人民を子どもと思うようになるということ。
- ⑤ すべての人民と国を治める者とが、互いに自分の親と思つたり子どもと思つたりするようになるということ。

問5 本文の内容に合致しているものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 27。

- ① 国を治める者と人民とは、親子の関係と同じなので、人民が心から忠誠を尽くすように強く指導すべきである。
- ② 国を治める者と人民とは、互いの立場を尊重しつつも、まずは自分の幸福を優先すべきである。
- ③ 国を治める者は、自分の思うままに振る舞うことこそが人民の幸福につながることを自覚して行動すべきである。
- ④ 国を治める者は、まず人民を幸福にすることを考え、その後自分について考えることを心得とすべきである。
- ⑤ 国を治める者は、人民が「天下を親と思ひ子と思ふ」ようになるために、積極的に親孝行を奨励すべきである。